

週報

【2020/02 第2例会】

例会日：毎週金曜日
 例会場：碧海信用金庫本店3F
 安城市御幸本町15-1
 TEL：0566-75-8866
 FAX：0566-74-5678
 Email：anjo-rc19580206@katch.ne.jp
 HP：http://www.anjo-rc.org

第3029回例会

2020年2月28日(金) 12:30～13:30
 司会者：鶴田 香也乃さん・辻 隆士君
 ソング：「それでこそロータリー」



ニコボックス報告：小林 喜司男君
 雑誌委員会：原 敏城君

ゲスト及びビジター：加藤 弘様 功労会員
カタヤマ モンド
 片山 主水様

2019-2020年度RIテーマ：
 「ロータリーは世界をつなぐ」

安城ロータリークラブ会長方針：
 「明日(未来)へつなぐ」

- 会長：寺田 孝司
- 幹事：加藤 正人
- クラブ会報：服部 敦・岩井 春次
- 創立日：S33年1月10日
- RI加盟認証日：S33年2月6日

■ 会長挨拶

寺田 孝司会長



■ 出席報告

本間 育子さん

会員	53名
出席義務者	43名
出席	41名
欠席	12名
出席免除者の出席	
出席率	81.00%

■ 幹事報告

加藤 正人幹事

1. 次年度地区出向者の委嘱状が届きました。
2. 本日例会終了後、ガバナー準備会議を行います。また、18:00～RRIにてガバナー補佐関係会議を行います。
3. 次年度組織と次年度IM組織表を配布いたします。
4. 3/21-23宮崎ゴルフツアーに参加されます方は、事前登録料を集金いたします。
5. 4/12(日)2020-21年度地区研修・協議会の出席義務者の方は出欠報告をお願いします。
 また、4/17地区研修報告発表をお願いする方には依頼書を配布いたしました。
6. 5/16(土) 国際ソロプチミスト安城 チャリティー講演会が開催されます。チケットは事務局にあります。
7. 6/13-14 「砺波ロータリークラブとの交流会～砺波夜高祭りとゴルフ・市内観光～」を、企画いたしました。
 ご同伴者様と一緒にご参加ください。

◆ 卓話

テーマ「ガバナー輩出による勉強会 2760地区ガバナー事務所の役割とは。
 ～地区の空気を知ってもらおう～」

卓話者 片山 主水様 パストガバナー(2008-2009年度ガバナー)



御挨拶

皆さん今日は！

ご紹介いただきました片山です。(細井さん)

久しぶりで、安城クラブさんを訪問させて頂くことになりました。

1回目は今から23年前、1997年11月26日です。この年から、此の時の2760地区11代犬飼ガバナーが1クラブ単独でなく、2・3クラブ合同で公式訪問をしました。私はその地区幹事で、刈谷・知立・安城の合同訪問に同行してきました。ホストクラブは刈谷クラブでした。

2回目は、2008～09年のガバナーとして、会長さんは加藤弘・幹事は大嶽岩雄さん。という訳で今回で3回目です。

沓名ガバナー・ミニー・また寺田会長初め安城クラブの皆さんには本当にお目出度うございました。

創立番号13番やはり当時の安城市の実力・都市力を表していた。35代ですから遠慮が過ぎました。

現在はガバナー・ミニーという呼称で、2760地区が当地区の2021～22年度35代ガバナーとして指名したガバナー候補者ですということですが、いよいよ、今年6月開催のハワイの国際大会で選任されると、正式に、当地区の2021～22年度ガバナーエレクトとなる訳で、あとは一日も早く1日が暮れてくれるのを待つだけです。

唯、来年の1月早々に、全世界のガバナーエレクトが集まってするゲッツという難行苦行の研修があります。

クラブ会長にペッツ 会長エレクト研修セミナー・プレジデント・エレクト・トレーニングセミナーがあるように、ゲッツGETS ガバナーエレクト トレーニングセミナー というのがあります。これが大変、10日間 夫婦同伴缶詰め！

来年から アメリカのフロリダ半島オーランドという所で行われますが、少し短くなるという話ですから、多少 緩和されるでしょう。

皆さん 洗脳され帰ってきます。

私も意志が弱かったですね、

洗脳される所も多かったのですが、失望するところもありました。入れ代わり立ち代わり、講義・講演の内容が、会員の増強 寄付の増強の強力な勧めとその方法の教授と説得、リーダーシップの重要性等々で、全部行き着くところ、ガバナーは率先が大事、何度も垂範して会員にも寄付の機会を作ってやって下さい、ということです。

疑問を持ちつつ帰ってきました。

今日は、

地区内からの要望 ガバナー自身の要望

RI会長からの要望と 三方からの要望があつて

「ガバナーは ガバナー事務所は 如何すべき」

ということを念頭に、話をさせていただきます。

1 ガバナーの方針、地区の目標等の策定について ※

表題の「如何すべき」もガバナーの方針、地区の目標の策定も、その課題をなし遂げるには、

まず ロータリーに対する ガバナー自身の 心を決めて 核心を明確にする必要があります。

何事にも、真・行・草（心行相）の順序がありますように この場合も心行相の 心を決めることが 先行します。

ロータリーに対する ガバナーの 心 というのは

ロータリーをどのようなものとして 考えるか

ロータリーをRIから与えられたものとして考えるか

いや ロータリー とは こういうものであった

と考えるか さらに一步進めて

ロータリーはこういうものでなければならない

と自己の願望・理想・当為を含めたものとして考えるか ということです。

という訳ですから、やはり、ロータリーがシカゴで発祥した時の様子を理解しておくと共に、日本のロータリー発祥の際の様子も考えておく必要があります。

シカゴで初めてポールハリスが4人(ポーガス

シルハイ)で結成した時の環境・理由があつたと同じように、日本のロータリーの結成にもまた異なった環境・事情がありました。

日本のロータリーの歴史は1920年10月20日東京クラブの創立からはじまりました。今年は丁度100年になります。

ロータリー渡来のこの1920年頃においては、日本は

江戸時代後期のある程度豊かな町人階層による経済・文化を保持しており、これに続く明治維新後の50年の西洋文化の真剣な吸収の併せて100年を有しており、日本の政治・経済・教育・科学・文学等あらゆる分野について 西欧の国・国民に、日本、日本人は他の有色人種とは明らかに違う、顔は不味いけれども 聡明である、という印象を与えたと思われま

このような時に三井銀行重役の米山梅吉にロータリーの創立の依頼があつた訳ですが、老後は社会奉仕をしたいと計画していた米山自身は、その依頼に大いに賛同し、アメリカでのロータリーの発祥の歴史を知らなかったのではないかと思われる節がありますが、そしてここが肝心な点ですが、種々の職業から、自己と同レベルの超一流の紳士ばかりを勧誘し、29人で東京倶楽部を1920年10月20日創立しています。 855※

このような環境・経緯により、日本のロータリーは、アメリカとも他の国のロータリーとも異なる日本独特のゆったりとした優雅なロータリークラブが誕生したと思われま

発足当時のクラブは、親睦と社会奉仕の双方が同程度の比重で実質的な目的となっていたと思われます。

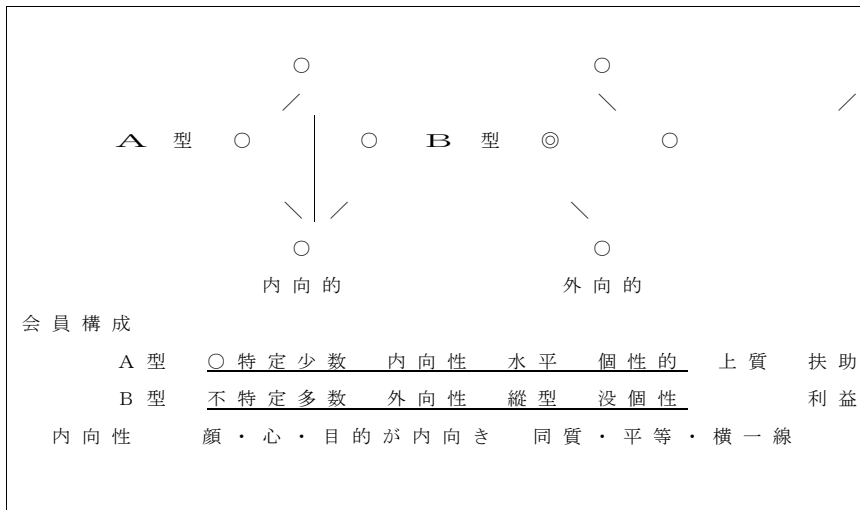
ただ、全体として、奉仕という目的に寄せる気力は弱く3年後に発生した関東大震災に対して、本場アメリカのロータリーから思いもよらず多額の義捐金が寄せられたことで、ロータリーが掲げる奉仕の目的がどのような重みを持っているかということに思いを新たにしたということのように思われます。

その後の日本のロータリーの発展のなかで、親睦は目的から消え、職業を通じて社会に奉仕すると解する職業奉仕と、会員自身の精神的鍛練(字面にはなっていないが、人生の道場と言われている)を目的に加えてきているように思います。

2 日本のロータリーの特異点について ※

次には 次のような日本のロータリーの特異点について気を配っておきたいと思えます。

①その1は、ロータリーは 奉仕を目的としていながら ももとは、クラブの組織であったということです。 クラブというのは倶楽部・共に楽しむと書くように 趣味の会・親睦団体に適当な組織です。その全会員の顔が他の全会員に向かっている組織です。図示すればA型の円卓会議様の目線です。これに対する組織は、B型で一方◎と他方○とは相対する関係であり、他方○のそれぞれは一方◎に対しては同方向でも○に対する関係はないかあっても付随的なものです。



②その2は、資源自給自足原則(制度)です。

奉仕を大きくしようとすれば、寄附を外部に求め、奉仕活動にも外部の参加を勧誘するのが一般的ですが、日本のロータリーは 奉仕をするのにその労力・財源は会 員のみが拠出・負担し、外部に求めないというのが原則。

自分達の力のみで奉仕をするという誇りと特に日本人特有の陰徳積善(積善の家に必ず余慶有り)の奥ゆかしさによるものです。また、組織が内向的であることに起因しているとも思われます。

しかし、近年は、率先垂範、アイサーヴのみから、 次のように変わりつつあります。

率先垂範・孤軍奮闘無言方式 アイサーブ
鼓吹唱導育成方式 Rファミリー ウィサーヴ
勧誘共同方式 準会員 コーサーヴ
外部大衆 レッツサーヴ

③その3は、ロータリーはロータリー(回転)

という原則・制度です。ロータリーは役職も活動も一年 で巡るもの、新旧替わるものという原則です。

長年のロータリー活動のなかで、原則として、制度として尊重されてきたものです。

しかしこれも、近年、効率的な数年の継続の許容・奨励、持続可能な活動・改革改良・前進、に変わって きています。

以上、要は、各国・各地域においてロータリーのあり方 は千差万別、RIの戦略計画にいう中核的価値観の中に 挙げられている「多様性」に富むのです。

日本のロータリーが特有の制度、体質を持っていることを念頭において、常時、思い起こしていただければ、幸いです。

3 経験から参考までに

項を改めて、参考迄に、私の48年の経験から私の考えを申し上げておきたい事項があります。

それは職業奉仕のことです。

職業奉仕にあつては まず・職業の原点は 自己と家族の生きる糧を獲得するための利益を得る活動であることを認識し・利益を得るためには他人の犠牲において 初めて得ることができるものであり 従つて 多くの場合 職業における等価交換の原則が外見上・形式上又は心理上の等価となり、常に、自己の利益獲得の量が、他人に生じる犠牲・損失の量を凌駕する傾向(危険危惧種)があることを率直に理解し、かつ、その上で

③最良奉仕の最多利益、最もいい奉仕をする者は、最も多くの利益があるという法則を了解し、その法則の因果の確率が高い確率を有することは、実証済みであるから 最多利益ならずとも利益を得るためには最良の奉仕をする外はないことを信じ通し、物心両面に亘る最良の仕事をする事に務めるべきです。これこそが、日本のロータリアンが金看板とはやず職業奉仕です。

この「物心両面に亘る最良の仕事をする」というのは、愛を込めて、心を律し技を磨き(職業道徳・職業倫理の遵守はこの「心を律し」一部です)最良の仕事結果を提供することです。職業をロータリーが殊更、雑多の社会現象から、取り上げなければならないのは、上記の様な危険に陥る問題点を含み、職業の多数の相手方と利害が衝突するからです。そして、職業上の成功・不成功が即、その一家の幸・不幸に繋がるからです。それ程職業の営みは人生最重要の大事業です。

であるからこそ、ロータリーが職業をロータリーの解決すべき最大の難問として選択したのです。

ロータリーのいう「職業奉仕」とは、各人が従事する職業を、各自が最善の努力を以て、物心等あらゆる側面において職業道徳・倫理を遵守し、職業の関係者に対し、最大の敬意を払い、自己の技能・技術を磨き、物心共に最良の製品・サービスを提供する等の一連の事業活動を行なうことであると私は思います。

ただ、倫理側面だけではなく、職業技術の鍛練等あらゆる面における、あらゆる関係者に対する関係者に対する最良の製品・サービスを提供する等の一連の事業活動が対象であると思っています。

職業によって得た利益で社会に奉仕することが、職業奉仕の目的でもありませんし、職業奉仕の一部でもありません。実は、それが社会奉仕の典型的なやり方です。

職業によって得た利益で社会に奉仕することが、職業奉仕だとすれば、それでは職業で得た金以外で社会奉仕をする人たちはどこでその金銭を得ていると言うのでしょうか。

金銭を色分けして職業で得た金銭で社会奉仕をするのは職業奉仕で、それ以外の金銭は社会奉仕なのだというのでしょうか。

シェルドンの有名な

「ヒープロフィット モスト フーサーヴィス ベスト」

「最も良い奉仕をする者 最も多く報われる」「最良

奉仕の最多果報」という標語は、100年に亘って事業繁栄のための実践法則であつて、原文の Profit

Most の対象は金銭であつて、金銭以外の感謝とかの 心理的なものは含まれていないのですから、RI

公認のこの第2標語を、無視するか、社会奉仕等を含めた奉仕全般に適用される標語でもあると曲解して使用することになければならないこととなります。 また、最良の仕事・職業にするのは、職業道徳の面に限定することなく、広い側面に亘って研ぎすました製造技術等の最良も重要な側面として指摘・強調すべきものと思います。

最後に、確かに、職業を営む過程において、

企業が従業員に職場を提供し(雇用の創出)、資材を仕入れ(需要の創出)製品を社会に供給する等ということがあつて、これらの行為をもって周辺地域・社会に貢献しているということもできない。

それらの行為は、企業自身の利益実現のための不可欠の必然の一過程の調達行為であり供給行為であるからです。

また、国、地域に納税する等国に経済的に貢献するというが、それらは、利益収得のお返しであつて

義務行為の履行に過ぎないものです。

ただ、下記のように、

職業をもって、あるいは、職業を通じて、社会に貢献することがない訳ではない。

納税相談・技能指導

未就業者の為の就職支援

JR・ソニー・豊田・三井銀行等の事業遂行自体

(職業奉仕と環境奉仕)

4 地区方針・地区目標との最重要項目の策定とこれら等に伴う「地区便覧」の作成、地区協議会、地区大会 日程・プログラム協議等々について